

[7] 小林市小体連

I 年間事業

回	期 日	時 間	会 名	内 容	会 場
1	5月 8日(月)	15:00~16:30	理事会	本年度役員選出 事業計画検討	南小
2	6月 9日(金)	15:30~16:30	理事会	陸上大会について 研究の方向性について	南小
3	9月 1日(金)	14:30~16:30	理事会	陸上大会について 研究について	南小
3	10月19日(木)	13:30~16:30	理事会	陸上大会前日準備	南小 市運動公園
4	10月20日(金)	8:30~16:30	大会	小体連陸上大会	市運動公園
5	12月 1日(月)	15:00~16:30	理事会	授業研究会	南小
6	2月15日(木)	15:00~16:30	理事会	年間反省 次年度に向けて	南小

※ 第5回において、県小体連研究部長の年永健二教諭に「ネット型ゲーム」の授業づくりについての講話をして頂いた。

※ 12月6日(火)の理事会では、南小学校において坪田教諭による第4学年ソフトバレーボールの研究授業を行った。

II 事業部のあゆみ

1 陸上大会

- (1) 大会名 令和5年度小林市小学校体育連盟第64回陸上大会
- (2) 実施日 令和5年10月20日(金)
- (3) 会 場 小林市運動公園
- (4) 出場者 小林市内小学校(12校) 6年生
- (5) 実施種目 100m走、50mハードル走
長距離走(男子1000m・女子800m)
ソフトボール投げ、走り幅跳び、学校対抗リレー
- (6) 競技方法
- ・ 競技は全てタイムレースとする。
 - ・ 種目については、一人一種目までとする。ただし、学校対抗リレーは除く。
 - ・ その他細部については、小林市小学校体育連盟による競技規則を適用する。
- (7) 表 彰 各種目・リレー種目共に8位までを入賞とする。
全児童に記録証を渡す。

Ⅲ 研究部のあゆみ

1 研究主題・副題

生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習の在り方
～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～

2 研究の基本方針

- (1) 指導と評価の一体化
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

3 研究の内容

- (1) デジタル学習カードの作成及び活用
- (2) 思考ツール活用の在り方
- (3) 授業研究会の実施

4 研究の見通し

年度	4年度	5年度	6年度
宮崎県	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の基礎を育む体育科学習の在り方～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の基礎を育む体育科学習～児童一人一人の思考力・判断力・表現力等を養う授業の創造と展開～	
学体研	日向・東臼杵 (ゴール型：タグラグビー)	日南・串間 (ネット型：プレルボール)	高原・小林・えびの (ネット型：ソフトバレーボール)
小林市	ネット型	ネット型	ネット型

5 研究の実際

(1) デジタル学習カードの作成及び活用

来年度の学体研での発表に向けて、ソフトバレーボールにおける「指導と評価の計画」の見直しを行った。さらに、指導と評価の一体化が図られるように、設定したねらいや指導内容、評価方法等を反映した「デジタル学習カード」を作成した。

デジタル学習カードは、PowerPoint を用いて、全8時間分を作成しており、基本的に、1単位時間分が視聴覚教材、動画記録、振り返りシートなどで構成されている。

自分やチームのプレーを動画で記録したり、ねらいに正対した振り返りやまとめを行ったりすることで、デジタル学習カードがポートフォリオの役目を果たすことにつながる。毎時間の学びが蓄積され、学びの成果が可視化されることで、児童が自分の成長を実感し、運動における主体性がより高まっていくことを意図している。

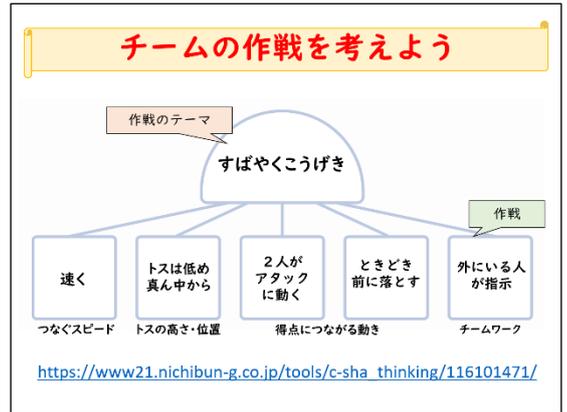
<p><2時間目> パスの仕方を知って、味方が受けやすいようにボールをつなごう。</p> 	<p>動画に記録しよう</p> 	<p><2時間目> パスの仕方を知って、味方が受けやすいようにボールをつなごう。</p> <table border="1"> <tr> <td>①味方が受けやすいようにボールをつなぐことができたか。</td> <td>△</td> <td>○</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>②自分や友達のことを、仲間に伝えることができたか。</td> <td>△</td> <td>○</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>③だれでも仲よく、進んで運動することができたか。</td> <td>△</td> <td>○</td> <td>◎</td> </tr> </table> <p><分かったこと・できるようになったこと・もっとならばりたいこと> 腕を振って打つのではなく、ボールを真上にあげるように、やさしく打つと、うまくいくということが分かった。</p>  <p>【挿画】：マーカーで色ぬり</p>	①味方が受けやすいようにボールをつなぐことができたか。	△	○	◎	②自分や友達のことを、仲間に伝えることができたか。	△	○	◎	③だれでも仲よく、進んで運動することができたか。	△	○	◎
①味方が受けやすいようにボールをつなぐことができたか。	△	○	◎											
②自分や友達のことを、仲間に伝えることができたか。	△	○	◎											
③だれでも仲よく、進んで運動することができたか。	△	○	◎											
視聴覚教材	動画記録	振り返りシート												

(2) 思考ツールの活用の在り方

デジタル学習カードの中に、思考ツール(クラゲチャート)の機能を取り入れた。第6時のチームの特徴に合った隊形や作戦を考える、話し合いの場面において活用した。

パスのスピードやトスの高さ、得点につながる動きなど、教師から視点を与えることで、チームの目標や課題に合った作戦を考えることができるようにした。

ゲーム間のミーティングにおいて、立てた作戦が実行できているか、各チームで評価する活動も設定することで、よりボール操作や動き方、チームの課題を意識できるようにした。



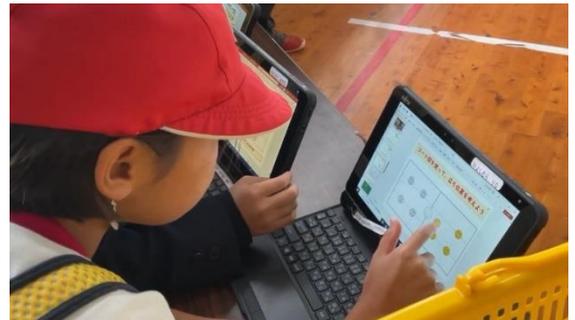
(3) 授業研究会の実施

令和5年12月1日(金)に、授業研究会を実施した。

単元名	学年	授業者
ネット型ゲーム「ソフトバレーボール」	第4学年	小林市立南小学校：坪田 啓介 教諭

本時の目標は、「ボールをつなぐために立ち位置や役割について、自分や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。」であった。導入の段階では、前時の児童がプレーする様子を動画で振り返り、本時の課題作りを行った。展開の段階では、デジタル学習カードの作戦ボードを用いて、チーム内でポジショニングについて話し合った。

また、共生の視点に立ち、キャッチを認めたり、プレーに応じて得点を変えたりするなどして、ルールを工夫した。全員が得点できたときには、多く加点されるようにし、運動に対する主体性をもたせ、全員参加を促した。授業研究会においては、小学校体育振興指導教員である年永健二教諭に、立ち位置と役割の関連やICTを活用した指導方法について助言をいただくことができた。



【 ポジショニングについて話し合う様子 】

6 研究の成果と課題

(1) 成果

- 各校において、体育主任が中心となり、デジタル学習カードを活用した実践を行った。単元終了後の意識調査から、「デジタル学習カードの活用を通して、ソフトバレーボールの技能のポイントが分かり、自分の成長や課題を実感することができた」と、95%以上の児童が肯定的に捉えていることが分かった。
- 授業の導入において、前時のデジタル学習カードから児童の課題意識を取り上げたり、課題のある場面を動画で振り返らせたりするなど、ICTを効果的に活用することで、児童に活動への目的意識を持たせ、運動に主体的に取り組ませることができた。

(2) 課題

- 各チームで、作戦ボードや思考ツールを活用して話し合う場面において、操作方法や話し合いにどう生かすかなど、リテラシーに関する指導が十分にできていなかった。それらのツールの効果的な活用方法や活用場面など、改めて検討し、指導内容の充実を図りたい。
- デジタル学習カードは、PowerPointで作成されているため、教師が授業内にカードを回収できなかつたり、記入された内容を見取るのに時間がかかったりする。どの媒体でどのような内容にすれば、効率的に評価に生かすことができるか、改めて検討し、改善を図りたい。